

第71回車座集会意見交換内容（幸区）

- 1 開催日時 令和7年1月11日（土） 午前10時00分から12時00分まで
- 2 場 所 幸区役所4階会議室
- 3 参加者等 参加者12名、傍聴者約6名 合計18名

<開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第71回車座集会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます幸区役所企画課、塚本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の車座集会は「自分たちのまちは、自分たちで守る～地域防災力強化に向けた消防団充足率の向上～」と題しまして、市長と参加者の皆様に意見交換を行っていただきます。

それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶申し上げます。市長、お願いいたします。

<市長挨拶>

市長：皆さん、おはようございます。

今日は（こじんまりと）まとまった感じですので、座ったままでお話ししたいと思います。

今日は3連休の初日ということで、皆さんいろいろとご予定がある中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

今回で71回目の車座集会になります。本当にいろんなテーマでやってきました。数分前に赤坂区長と話していたんですけど、前は、幸区では、公園管理について議論したんですね。公園管理をしている自治会だとか公園管理運営協議会は、高齢化によって（運営が）なかなか難しいなといったところに、新たな担い手をということで（車座集会で）話をしたんですけど、何と、見事にそのテーマにした公園が1年たって再生しているという写真を見て、車座集会をきっかけにすごく課題解決をしているということにちょっとびっくりと同時にうれしい話だなと思っております。

今回は、消防団員のこと、自分たちの地域は自分たちで守っていこうということをテーマにするんですけども、川崎市内でいくと消防団の充足率は、全区的に課題が多いです。都市部はみんな大体そういう課題を抱えているんですけども、去年は能登半島の地震もありましたし、いつ災害が起こってもおかしくないときに、公助だけ、いわゆる消防署というか、あるいは行政だけということじゃなくて、消防団の皆さんというのは地域の皆さんが参加していただいている大切な防災リーダー組織であるので、ここを充足させていくということは本当に大事なテーマなんですけども、なかなか長年充足率には課題があって、何とか今日は若い皆さんも含めていろんなご意見をいただいて、さらにどうしていったらいいのかということを、みんなが自分事として考えてもらう機会になればいいなと思っております。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

<自己紹介>

司会：市長、ありがとうございました。

続いて、本日ご参加いただいている皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。その際に、お名前とご所属のほか、消防団の方は幸消防団のいいところ、消防団ではない方は消防団に対するイメージを一言いただきたいと思います。お手元の資料に名簿がございますけれども、この名簿順でお願いしたいと思います。

最初に、村石本団警護部長様からお願いしたいと思います。

村石さん：私は幸消防署内にある幸消防団本団に所属しており、災害発生時には、団の指揮・運用を担当している警護部長の村石と申します。入団して四十数年余り消防団活動に携わっております。ふだんは新川崎鹿島田地区で3代にわたり八百屋を営んでおります。現在68歳です。実業と消防団の二刀流ということで頑張っております。

消防団のよいところは、消防団活動を通じて防火・防災のスキルアップを目指し、自分、家族、隣人、地域を守るとの気概を持ち、活動を通じて地域貢献のやりがいを得られること。また、自分の職業とはかけ離れた関係のない方たちと消防団活動を通じて地域の新たな出会いや結びつきが生まれることで一体感や楽しさを感じることです。

以上です。ありがとうございました。

鈴木さん：幸消防団第二分団で消防部長を務めさせていただいております鈴木と申します。入団してからの歴としては19年で、ふだんは会社員をしております。

消防団のいいところ、今、村石さんのほうから全て出ちゃったのですが、私のほうからは、消防団のいいところは、やっぱり所属する中で、仕事とか年齢の垣根を超えた仲間ができるところかなと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

出口さん：第四分団の団員であります出口と申します。よろしくお願いいたします。私は、幸区で生まれ育ち、今現在も幸区の中でケアマネジャーとして高齢者の方々のケアマネジメントの仕事をしております。

そうですね、消防団に入るといふところでは、私は、やはり地域で出ていくことが多くなることで、地域住民の方と顔の見える関係であったりとか、つながり合うことができるというところであったりはいいなと思っております。本日どうぞよろしくお願いいたします。

堀本さん：幸消防団第二分団団員の堀本と申します。

私は高校3年生のときに入団いたしまして、今大学1年生の19歳になります。入団してから大体1年半ぐらいです。幸消防団に入ってみてよかったなと思うところは、もう前のお三方がおっしゃっていただいたとおりなんですけども、学生では絶対関わることでできない、実際に社会人の方ですとか、いろいろな生き方をしている方々となつながりを持つことができる、地域の貢献ができることはもちろんなんですけれども、そういったつながり、仲間ができるというところがすごく大きいのかなと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

浅利さん：新小倉にありますクレストプライムレジデンスの自主防災組織の会長をやっています浅利と申します。よろしくお願いいたします。

そもそも我々の自主防災組織、まだ設立して1年未満なので、今日は勉強するつもりで来たというところもあるんです。なので、消防団に対するイメージがほとんどないんですね。基本的な質問もさせていただくと思いますけども、よろしくお願いいたします。

瀧塚さん：おはようございます。幸区に住んで在宅勤務をさせていただいている瀧塚と申します。

本日は幸区に住みながら在宅勤務をしている会社の方にも、こうしてお話を聞くことで、消防団の何かに役立てればということでお話をいただきました。私もあまり消防団について知識がないまま本日参加させていただいたので、何かしらいいものを持って帰れたらなと思いながら参加しております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

有里さん：川崎市立幸高等学校から来ました有里と申します。

幸消防団に対してのイメージとしては、やっぱりトレーニングがあつたりとか、忙しそうというイメージを持ってきました。いろんな質問をさせていただきます。よろしくお願いします。

森さん：同じく市立幸高校から参りました2年生の森と申します。本日は市長の隣ということで大変緊張しておりますが、どうぞよろしくお願いします。

消防団に対するイメージとしては、なかなか乏しい部分はあるんですけれども、なかなかハードルが高そうだなと思います。以上です。

馬場さん：おはようございます。川崎市立看護大学2年生の馬場と申します。

今日は防災のお話ということで、消防団の知識はあまりないのですが、地域の方々のために活動していращやる消防団の方々の話を詳しく聞けたらいいなと思って来ました。よろしくお願いします。

吉野さん：同じく川崎市立看護大学から参りました吉野です。

消防団に関する知識は皆さんと同じでほぼなくて、辛うじてあるイメージは、何か過酷というか、とても大変な仕事なのかなというふうに思っています。本日はよろしくお願いいたします。

北野さん：北野書店の北野と申します。

消防団のイメージとしては、皆さんと同じくほとんどないんですけれども、本日勉強させていただけたらなと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

青山さん：幸区でフォトスタジオを営んでおります青山と申します。

幸消防団のイメージとしては、ポスターにもなっているGABUさんがお友達で、飲み会の中で、GABUさんがぽろっと「消防団員になったんだ」と話して、「へえー」ぐらいで終わっているの、ちょっとそこから一步、今回知識を深めてGABUさんともお話しできたらと思っていますので、よろしくお願いいたします。

<消防団からの説明>

司会：皆様ありがとうございます。改めて、本日はよろしくお願いいたします。

続きまして、消防団の活動や課題等について、幸消防団鈴木第二分団部長様、ご説明をお願いいたします。

市長：よろしくお願いします。

鈴木さん：では、改めて、先ほど自己紹介させていただきました幸消防団第二分団の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

本日の意見交換に先立ちまして、先ほど自己紹介の中でも皆さんおっしゃっていただいたとおり、消防団についてあまりご存じでないという方もいらっしゃるかと思いますので、私のほうから、消防団というものについて、簡単にQ&A形式も含めましてご説明させていただきたいと思いますので、スライドのほうにご注目いただければと思います。

そもそも「消防団ってなに？」というところなんですけれども、これちょっと固い言い方をさせてい

ただきますと、消防組織法という法律がございまして、それに基づいて各市町村の条例に基づいて設置をされている消防機関の1つです。そこに所属する消防団員の身分というのは、非常勤特別職の地方公務員という形で位置づけられます。消防団員は、ふだんはそれぞれ仕事、それから学校に通うとか、いわゆるなりわいを持ちながら、自らの地域は自ら守るという精神に基づき、防火・防災の活動に取り組んでおります。

川崎市内は、今、臨港、川崎、幸、中原、高津、宮前、多摩、麻生、この8つの区分になっておりまして、8つの消防団が存在しております。入団の資格としては、各区域に在住または勤務をしている18歳以上の方であれば入団していただく資格があります。幸区においてはというと、幸区は幸消防団という幸区を管轄する消防団が4つの区域に区分をされておりまして、今ご覧になっていただいている第1分団、第2分団、第3分団、第4分団ということで4つの分団が設置されております。私が所属をさせていただいている第2分団については、緑色のところにございます幸区役所があるこの管内を管轄させていただいているという形です。

このような形で、各消防団は管轄する地域内を幾つかの区域に分けて、それぞれの場所にその区域を管轄する分団を置いていて、こういった構成になっております。

では、具体的に消防団はどんな活動をしているんですかということで、具体的な消防団の活動についてちょっと見ていきたいと思います。

先ほど申し上げた消防組織法という法律の中には、消防の仕事、存在の意味というのが明示されています。消防職員と同様に、災害から住民の生命、身体、財産、これを保護することが消防団の任務になります。この任務に基づいて、様々な火災、風水害、地震、こういった災害に対して自宅もしくは職場等から出動をし、消防署の方とともに地域住民の保護、また災害の防除に努めております。

災害のないときにも訓練や自分たちが扱う器具の点検、それから予防・広報、こういったものを積極的に行わせていただいて、災害の防止や軽減のための活動に取り組んでいるところです。訓練については、各分団の器具置場というのがございまして、そちらに消防自動車も格納されているんですけれども、そちらのほうで毎月訓練とか器具の点検というのを実施しております。

消防団員の特徴が「地域特性に明るく、多くの地域の人を知っている」というところで、消防団員というのは、先ほど言った各分団の区域内に点在して在住をしているので、地域の実情をよく分かっているというところが消防団の特徴になります。例えば、あそこにはご高齢の方がお1人で住んでいるとか、ここの家はどのような家族構成だとか、この道はどうなっているとか、行き止まりになっているとか、そういった地域の特性についてよく知っている上で活動できるというのも消防団の特徴の1つになります。

幸消防団の対外的な主な活動といたしましては、平常時においては、防災及び火災予防の啓発活動、応急手当の普及活動、それから広報活動及び地域への訓練指導。災害時においては、消火活動、救助活動、避難誘導、こういったことを行わせていただいております。

実情についてちょっと知っていただいたところで、そもそも幸区には消防団員は何人いるのかという、実態について説明をさせていただきたいと思います。

こちらが現在の幸区にある幸消防団に所属をしている消防団員の数になります。一番左下、合計で124名とございますけれども、これが令和7年1月1日時点での消防団員の人数になります。それに対して、その横に183という数字があると思うんですけれども、これが消防団員の定数ということで、川崎市、先ほど8つの消防団があるとお話をさせていただきましたが、それぞれの消防団で定員の数が決まっております。それに対して現状どのぐらいなのかということですので、幸区は183の定数に対して124で、お隣に充足率という数字で67.7%とあると思うんですけれども、必要な定員数に対しては7割を切ってしまうという、こういった充足率になっているというところがございます。

先ほど、市長のほうからもお話がありました能登の地震ですとか、それから過去を振り返りますと阪

神・淡路大震災、東日本大震災、それから近年の各地で多発しております豪雨災害、こういったものを鑑みますと、地域の防災体制の充実・強化というのが必要と言われております。特に首都直下地震とか、想定したこともないような大災害が起こったときには、常設の消防だけでは対処し切れない、こういった事態も多く発生するのではないかと危惧されているところなんです、そういった現状に対して、昨今の少子高齢化の進展、それから地域コミュニティの軽薄化、こういったものによって地域防災の要である我々消防団を担っていただける担い手の方が十分に確保できていないと、こういった現状があります。

川崎市を含めて全国でも消防団員数というのは減少傾向にありまして、平成20年には全国で89万人いた消防団員の数が令和5年時点では約76万人ということで、1年間に1万人ずつぐらいのペースで全国的にも消防団員が減少してしまっているという形になります。

先ほどご説明した幸区のほうでは、この充足率が67.7%ということで、必要な人数に対して大分足りていない状況でございまして、川崎市内の他の消防団と比べても一番充足率が低いという、一番消防団員の数が足りていないと、こういった現状にあります。

こういった現状を踏まえまして、我々消防団といたしましては、一昨年になりますが、幸消防団入団促進プロジェクト会議ということで、消防団に所属する若手を中心に、入団の促進ということについて、こういった形で全4回の会議を行い、第1回、現状の問題と入団促進の課題。第2回、今後の入団促進に向けた方策等について。第3回、退団を予防する具体的な対策等について。第4回については書面会議ということで報告書という取りまとめの会議になっておりますが、こういった形で、いかに幸消防団を理解してもらって入団をしてもらい、また辞めずに長く活動していただけるような状況をつくれるかということについて話し合いをさせていただきました。

検討した結果として、幸消防団といたしましては、より広く多くの方に消防団のことを知っていただきたいということで、町内会等の自主防災訓練の指導。それから小学生を対象とした授業への積極的な参加。こういったものを通して消防団についての理解をより深めていただく活動を増やしていこうというようなことが出ました。

2つ目は、消防団の訓練、それから教育体制の構築と業務の分散と平準化。古くからあるような負担をかける訓練や負担をかける役割、こういったものを見直して、いかに役に立つような知識、そういったものを得ながら充実した訓練、負担にならない訓練をしていけるか。それから、消防団の中にもいろんな役割がありますので、誰か一人の方が大きな役割を担うのではなく、それをみんなで分担することで、みんなが少しでも継続して参加しやすい状況をつくっていこうと、今言った2つのテーマ「地域をみんなで守る幸消防団」を実現していきましょうということで話し合いのほうをまとめさせていただきました。

そもそも消防団はボランティアという話で、皆さんの中にも消防団はボランティアでやっているというイメージが強いと思います。ボランティアとしての側面というのもすごく大きいんですけども、実際は、こういった階級とか、もしくは役割に応じて年報酬、それから月額報酬というものが個人に支給されております。

また、出動報酬ということで、火災現場などの災害に出場したとき、それから広報活動なんかに出場する非災害出場、こういったものに対してはきちんと手当というものが支給されるような、こういった形になっております。こちら2022年ですかね、川崎市のほうで待遇改善ということで、報酬のほうも支給していただいているような形になっております。

それでも、消防団の活動は割かし忙しいんじゃないのというイメージを皆さん持たれるかと思うんですけども、基本的に、我々は先ほど言った、なりわいを持ちながらやらせていただいておりますので、自分たちができる範囲のことをできるときにしかできないというところがあります。昔は操法大会に選

手として参加をしないと消防団員として一人前と言われないような時代があったので、大会が近いときには、それこそ週に2回、3回と訓練を行ったりとか、非常に時間的な負担も大きかったりもしたんですけども、こういったものも、今、見直そうというような形になってきておりまして、特に近年は女性で消防団に入団をしていただける方というのも非常に増えてきて、我々ができることの1つとして、応急手当の普及指導、こういったものに対して力を入れて活躍をしていただいています。

ということで、幸消防団のモットーとしては、今言った「出来るときに出来るだけ!」、自分ができる時間でできることを頑張ってやりましょうということをモットーに活動させていただいております。

それでも、興味はあるけど最近運動もしていないし、やっぱり消防団の活動は火災現場に行ったりと、危険そうだから嫌だなというふうに思われる方もいらっしゃると思うんですけども、今、消防団としては、我々のような火災現場とかにも出場する普通団員のほかに、機能別団員というのも募集しております。

地域防災の要として活躍する既存の消防団員を普通団員というのに対して、大規模災害時等に限定して対応する大規模災害団員、それから、広報活動を中心に活動を行う広報活動団員、この2種類を総称して機能別消防団と呼んでおります。実際に大規模災害や広報活動のみに参加していただくという形で、極力負担がないような形で消防団の活動に参加していただける、こういった選択もございますので、ご興味を持っていただければと思います。ちなみに幸消防団の機能別団員は、現在14名所属をしています。

今説明した機能別消防団の主な活動としては広報活動です。広報活動団員としては、火災の予防啓発活動、それから防災の啓発、消防団広報ですね。大規模災害団員については、大規模な災害が起きたときに基本団員の補助をしていただいたり、救護所等で活動していただいたり、こういった活動になっております。

ここまで幸消防団、それから消防団のことについて、駆け足ではございましたが説明をさせていただいたんですけども、実際に幸消防団の団員に、消防団ってどうなのかなということをいろんな側面でインタビューをさせていただいている動画がありますので、そちらのほうをこれから視聴していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(インタビュー動画視聴)

鈴木さん：実際の消防団員へのインタビュー動画を視聴していただきました。私たち幸消防団としては、より多くの方に消防団活動に参加していただけるような取組をいろいろ検討しながら進めております。消防団の活動も時代とともに変わってきております。ぜひ消防団のイメージの向上、それから入団促進のアイデア、こういったものがございましたら、忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

ご清聴ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

鈴木第二分団部長からご説明がありましたように、幸消防団の団員数は124人で、定員数に対する充足率は67.7%となっております。分団は、スライドのとおり、右側、第1分団から19人、25人、26人、第4分団で33人の方に活動していただいております。

<Q&Aセッション>

司会：それでは、ここからQ&Aセッションとして、市長と参加者の皆様から、消防団の活動や実態についてご質問いただき、消防団の皆様にお答えいただければと思います。質問のある方は挙手をいただければ

ば職員がマイクをお持ちしますので、お願いいたします。

どなたか、まずご質問がある方、ではお願いします。

青山さん：お話ありがとうございました。質問なんですが、機能別消防団員が14名いるということだったんですが、これはこの消防団員数の中に含まれていますか。

村石さん：含まれています。

青山さん：ありがとうございます。

村石さん：機能別消防団員も基本的な基本団員も全て含まれております。

青山さん：ありがとうございます。補足でまた質問なんですが、報酬のところがあつたと思うんですが、こちらの団員というのには、基本団員も機能別団員もどちらも同じ報酬額という認識でよろしいでしょうか。

村石さん：基本的には年報酬という形の1年間の報酬については異なりますが、出場についてはおおむね同じ報酬が支払われます。

青山さん：かしこまりました。ありがとうございます。

司会：よろしいですか。ほかに、ご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

浅利さん：ご説明ありがとうございます。今回のスライドを見させていただいて、やっぱり募集をするというところで、かなり敷居を下げて説明してくださっているなと思っているんですけども、中（消防団）に入ったときの教育内容とかはどうなっているんですかね、教えてください。

鈴木さん：まず、定例で毎月1回必ず訓練と器具点検等があるんですけども、そういった機会のときにお時間があつてご参加いただけるようであれば、先輩団員のほうから器具の取扱い方であるとか、実際に災害現場に出場したときにどういう手順で活動するかとか、そういったことについて、カリキュラムとまではいかないんですけども、順を追って皆さんに消防団員としての知識を深めていただけるような、そういった先輩からの教育は随時行っております。

浅利さん：ありがとうございます。実際に、消防団も消火活動をするという認識でいいんですかね。

鈴木さん：そうですね。正直言えば、川崎市や都市部においては常設の消防（署）が非常に充実をしておりますので、火災が発生した場合には、近隣から消防車もわっと十何台と集まってきたりもするので、我々が一線を取って水を出して放水するということは、機会としてはそんなに多くないのが正直なところですが。ただ、先日にも幸区内であつた火災では、火災の延焼時間が非常に長時間に及んで、まだ時期的にも暑い時期でもあつたので、そういった長時間、また暑い中、放水を続けなければいけないというときは、消防署員の方と交代で消防団員も実際に放水をして消火活動に当たるということもあります。

浅利さん：その他で何か消火以外のサポートとかというのをされているんですか。

鈴木さん：そうですね。消火以外にも、消防署員の方の補助、後方支援ということで、交通誘導を行ったりとか、ここから入ってはいけませんよという警戒線を設置したりとか、あとは実際に火災の規模が縮小したときには、使わなくなったホースを撤収する作業とか、あと幸区も非常に中高層の建物が多いので、例えば中高層の建物の上階が燃えたときには、水損防止ということで、下の階にサルベージシート、ブルーシートなんですけれども、そういったものを下の階のお部屋に敷かせていただいて、水がさらにその下に行かないようにとか、そういった形の処置をさせていただいている。そういったものも大事な火災現場での活動として行わせていただいています。

浅利さん：よく分かりました。ありがとうございます。結構マンションみたいなものが多いんで……

出口さん：では、女性はどうなことをしているのかなということになると思うんですけども、多くの市民の方がどうしたんだろうと来られるので、そういったときの誘導だったり、そういうことに取り組んだりしております。

浅利さん：ありがとうございます。マンションとかも増えている中で、高層階のときにはこういった活動をするのかなというのがすごく気になっていたんで、その辺は非常に勉強になりました。その意味で充足率が全然足りていないというお話だったんですけども、現状この取組で増やしていくというのもあるんですけども、そもそも何ですかね、市がもうちょっと予算を取って消防署の人数を増やすということも考えられるのかなと思うんですが、その辺のお考えはいかがですか。

市長：消防署は消防署の定数の中でやっているんですけども、それ以外の、今日は消防団としての話なので、そこはちょっと切り分けて議論していただければと思います。

浅利さん：分かりました。ありがとうございます。では、私からは以上です。

司会：はい。ありがとうございます。ほかの方、ご質問いかがでしょうか。

有里さん：ご説明ありがとうございます。聞いている中で、消防団の人数が年々1万人ずつ減っているという話があったのですが、それは入ってきてくれる方が減ってきているのか、もしくは退団をしてしまう人が増えているのかという、どちらが増加しているのかなという疑問があって、それを聞きたいと思います。

鈴木さん：全国的な話として、先ほどの年間に1万人ぐらい減っちゃっていますよというお話をさせていただいたんですけども、これは地域的な違いというものもあると思うんですけども、幸消防団について言えば、毎年新しく入団をしていただける方もおりますが、ご年齢ですとか体調の状況ですとか、そういったもので退団される方もいらっしゃいますので、入ってきている方もいらっしゃれば辞める方もいらっしゃるとうとうと、どちらかというと、今、全国的に見るとなんですけども、辞められる方のほうが多いので、減少傾向にあるという形です。大丈夫でしょうか。

有里さん：ありがとうございます。以上です。

吉野さん：お話ありがとうございます。僕が気になる点としては、消防団と医療機関との連携というのはどのような形で行われているのかお聞きしたいと思います。

堀本さん：ご質問ありがとうございます。ふだんの活動において直接的に医療機関の方々と連携するということは多くはないんですけども、実際に幸区民祭であったりとか防災訓練であったりとか、そういったところで出展の団体の医療機関の方々だったりとか、企業の方々とコミュニケーションを取ったりということはありますね。

吉野さん：分かりました。ありがとうございます。

司会：ほかの方で質問いかがでしょうか。お願いします。

馬場さん：ご説明ありがとうございました。疑問に思ったのが、入団してくる方は年齢的に若い人が多いのか、それとも私のイメージが、結構お父さん世代の人たち、30代、40代くらいの人が消防団をやっているイメージだったので、高校生の頃から始める方とかのほうが多いのか、大人になって仕事をしてから入ってくる方が多いのかというのを聞きたいと思いました。

村石さん：消防団歴が長いので私がいいかなと思いますが、消防団自体に入ってくる方は、僕が地域の中の、分団というんですけど、そこで経験していたのは、上は60代、会社をリタイアしたので地域の中に入って何か貢献したいんだよという方もいれば、自分の子どもの子育てが終わって、みんな高校生や大学生になったから、じゃあ俺ここに住むことに決めたので地域の中の貢献がしたいという40代ぐらいの方もいたし、逆にそれこそ高校生で入った方たちのように、自分の将来の夢を実現したいといって入る方もいました。多かれ少なかれ若い人が結構多いのかもしれないですね。1対1対2ぐらいですかね。以上です。

馬場さん：ありがとうございます。

司会：では、お願いいたします。

森さん：ご説明ありがとうございました。先ほど訓練というお話が出てきたと思うんですけども、具体的にどのような訓練をするのか教えていただきたいです。

堀本さん：ご質問ありがとうございます。本当に幅広くいろいろな訓練をするんですけども、一番大事なのは規律であったりとか、あと火災現場とかで実際に出場した際に、活動するときに使う器具、ホースの延長だったり、畳むときの取扱いであったりとか、あとロープの結索であったりとか、実際の災害現場で活動するときに必要な知識だったりを先輩方に教えていただくというのが一番メインになるかなと思います。

森さん：ありがとうございます。

司会：ほかの方、せっかくですので、いかがでしょうか。

北野さん：ご説明ありがとうございます。入団を呼びかけるに当たって、ほかの地区、例えば中原とか川崎だとかの消防団との連携とかは、もしあれば教えていただきたいなと思いご質問させていただきました。

鈴木さん：他区の消防団の方との連携というのは、正直いうとほぼなくて、川崎市全体で行われる消防団の行事、そういったもので顔を合わせたときに、他の消防団の方と情報交換、意見交換させていただくということはあるんですけども、あくまでも我々は幸消防団として、幸消防団の消防団員を入団促進するために自分たちで何ができるかなということを、やはり地域の中の情勢を見ながら考えていかなければいけないので、ほかのところがどういうふうに行っているのかなというのを参考にしながら、今インスタグラム、SNSを使って、いろんな消防団活動について、自分たちのことを発信しながら、こういうふうに変えたほうがいいのか、工夫、模索しながらやっているという状況でございます。

北野さん：大変参考になります。ありがとうございます。

司会：ほかの方でご質問は。

浅利さん：どうしても腑に落ちないところが1点あって、活動を聞くと火の中に入るようなイメージじゃないですか。何でもそこまでして皆さんは地域を守ろうとしているのかという、ざっくりばらんにお聞きしたいんですけど、何か動かされるところというのは、簡単に教えていただければなと思うんです。そこが伝われば、もうちょっと広がっていくのかなと思うんですけど、何がそこまで皆さんを突き動かすのかなというのをお聞きしたいと思います。

堀本さん：ご質問ありがとうございます。本当に人によって入団する動機だったりとかは違うと思うんですけど、僕が個人的なことと言えば、2016年に熊本のほうで震災があったと思うんですけども、そのとき私、熊本に在住しておりまして被災した経験がありまして、そこから災害だったりとか防災に関する意欲というか、防災に関わりたいという気持ちがずっとあって、地域に貢献できるということも兼ね備えている消防団のほうに入団したいということで、入団させていただきました。

人によって本当に動機は様々だと思うので、災害活動がしたいという人もいれば、消防士を目指しているから消防関係のことをやりたいという人もいると思うし、地域に関わる何かをしたいという人もいると思うし、そこは人様々だなというふうに思います。

出口さん：私も仕事を始めてから入らせていただいているんですけども、大きくは東日本の大震災があったときに、私もこの地域に行ったときに、本当に地震があった際に、もう信号機がぱたぱたと消えていて、市民の方たちがうずくまっている姿を目の前に見たんですね。私もケアマネジャーという仕事をしているので、仕事柄高齢者の方々の安否確認に入らなければいけないというところもありまして、独り暮らしや、あと医療依存度の高い方のおうちにどんどん優先して安否確認に入りました。そういったときは、特に利用者さんたちはすごく気丈に振る舞っていらっしゃったんですけども。やっぱりそういったところとか、あと、その後に震災で被災された現地にも入らせていただいた際に、本当にかなりのひどい状況を目にしてきました。その中で、自分がこの地域でこういったことが起きたときにどう関わっていけばいいのかなとすごく考えたんですよ。その中で、ふつふつと何かできないのかなと思いながら、そうしたところにちょうど私の町内会の会合で、村石分団長がいらしていたので、分団長、何かできることないですかねといったときに、初めてそこで消防団にまず見学に来てみなよと言われまして。

それで見学をさせていただいて、こういう取組をしているんだなということを見て、女性でもできることあるんだなと。そのためにも私自身もいろんな技術とか知識を深めていかなければならないんだなと思ったのがやっぱり大きなきっかけで、今どっぷりつかっております。

鈴木さん：そうですね。私もきっかけというのは、たまたま知り合いから入りなよ入りなよと言われていながらも、28歳で入ったんですけど、それまで消防団というのがあることも知らなくて、最初は社会見学のつもりで訓練を見学しに行った流れで、実際にこの人たちは、まちのためにこういう取組をしているんだというところに感銘というか、自分も地元にいる以上は、何か地元でできることがしたいなと単純に思った。そこは本当に、何というんですかね、気持ちだけと言ってしまったらあれなんですけれども、でも入った後に先輩から言われて、すごく今でも（心に）残っている言葉があるんですけども、例えば震災、東日本もそうですけれども、結構（自宅から）離れた場所にいらっしゃった方もいると思うんですね。そういったときに、なかなか自分の家に帰れない。でも家に家族がいたときに、家族がどういう状況になっているのか分からない。連絡も通じなければ連絡を取る手段もなかったりとか、そういったときに、もしかしたら自分の家族がけがをしているかもしれないとか、何かの下敷きになっているかもしれない。自分がそばにいなかったら、やはりそばにいる誰かに助けてほしいなと思うんですね、自分ができないから。でも、逆にですけど、自分の近くにももしかしたら自分の助けを求めているかもしれない。そういったときに何か自分が少しでも、安全を確保した上ですけれども、自分が少しでもできることがあればいいなと思って、今は消防団活動に取り組んでいます。

村石さん：消防団、四十数年やっています。1つは私の性格でしょうね。助けてと言われると断れない性格なんで、四十数年続いちゃいましたね。そういうところがやっぱりあるんじゃないかなと思いますね。気持ち、性格かな。そういうことで、以上、皆さんの意見でした。ありがとうございました。

浅利さん：ありがとうございました。

司会：ありがとうございます。

知れば知るほど気になることがどんどん増えてくるところではございますけれども、また後半のセッションもございますので、そこで少しやり取りをさせていただければと思います。

それでは、ここで休憩の時間を取りたいと思います。10時55分まで、ちょっと5分程度で短い時間になりますけれども、休憩とさせていただきます。

（休憩）

<市長との意見交換① 世間のイメージと実態の差を埋める取組について>

司会：それでは、ここからは「世間のイメージと実態の差を埋める取組」をテーマに、市長と皆様で意見交換をしていただきたいと思います。

ここからの進行は市長にお願いしたいと思います。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

市長：改めまして、よろしくお願いいたします。

鈴木さんがすごく分かりやすく説明してくださったので、本当に感謝しています。ありがとうございました。

ます。そして、幸消防団の皆さんが入団促進に向けてしっかりと取り組んで、一昨年から危機感を持って取り組んでいただいていることに本当に心から感謝を申し上げたいと思います。

さて、VTRなんかを見ても、ほおーという、私自身もちょっとイメージが、ハードルが下がったという感じがあります。何となく私自身も持っていた消防団のイメージは、もっと大変そうというイメージ、すごく部長とかから怒られそうだなとかというイメージがあったんですけど、そんなに飲み会頻繁じゃないんだとか、皆さん和気あいあいと楽しく訓練をして、先ほど4名の方がそれぞれの思いで入ってきて、地域のためにと、いろんな形で思っていることというのがよく分かったと思います。

私も含めて、大分ハードルが高い組織だと思っていたことと、プレゼンしていただいたような現実等になかなりのギャップがあるということが分かったので、このギャップをどうやって埋めるかということについて、前半少し皆さんからのご意見をいただいて、後半では具体的にどういう入団促進の手法というのがあるのかなということについて、皆さんのご意見をいただければなと思っています。

もう既に消防団の皆さん、報告書をまとめていろいろ工夫していただいているおかげで、高校生から入ってきている人がいるんだということにもびっくりしたんですけども、後半はそっちのほうに話をつなげるとして、前半では、このギャップをどう埋めるかということについて、皆さんから何かご意見をいただけるとありがたいなと思いますが、いかがでしょうか。

じゃあ、青山さん、お願いします。

青山さん：機能別団員の話を聞いていると、結構取り組みやすいんだなというようなイメージがあって、機能別団員自体は恐らく基本団員とは違うとは思んですけど、消防団員さんの的には機能別団員が増えることに関してはどうなんですかね。あまり機能別団員ばかり増えてもなという感じなんですかね。

村石さん：機能別団員が増えることは大歓迎です。間口を広くして消防団員を増やしていかないと、基本的にはそれが入り口になって入ってくるのかなというイメージもあります。それと、鈴木部長が言っていたように、人口は減りつつあるので、その中で人を増やすというのは結構難しい作業ではあるので、消防団員の機能別の団員の力を借りるというのもすごくいいことだなと思うので、増やしていきたいと思っています。

青山さん：多分そもそも機能別団員というものがあるということを知らない方が多いと思うので、何か消防団員募集というよりは、機能別団員というのがあるよ、こういうのどうですかぐらいのほうがギャップは縮まるのかなと思ったりもしました。

市長：なるほど。どうでしょう。

確かに機能別団員って何？というのはあるかもしれませんね。消防団というと、知っている人はいるかもしれないですけど、その中で機能別団員って何というふうに一般的にはあるのかもしれませんね。

青山さん：あと、すみません。気になっていたんですけど、町会とかがやっている自主防災組織と消防団員の違いみたいなのがいまいびんときいてなくて、何となく町会でやったださっているのは、乾パンをいっぱい集めてくれているなぐらいのイメージだったんですけど、何かそういう自主防災をやっている方のほうが防災意識はあるので、そういう方を消防団員に引っ張るような活動とかは、何かされていたり、または連携とか訓練を一緒にやったりとかいう経験はありますか。

鈴木さん：我々も常日頃、地域の自主防災の組織の方からお声がけをいただいて、地域の防災訓練等で消火器の使い方の指導ですとか、いろんなところで参加をさせていただくので、そういった組織の方ともやり取りをさせていただいている中で、消防団のことを知っていただいて、消防団のほうに参加をしていただけるように、勧誘と言ってしまうとあれなんですけれども、お声がけは随時させていただきます。

ただ、今日皆さんからお話をいただいたように、ある程度自分たちは自分たちのできる範囲で取組をしているけれども、そこからまた一步消防団という活動に参加するということになると、やはりそこに皆さんちょっとハードルの高さですよ、先ほど出てきた、忙しいんじゃないのとか、なかなか参加しようと思ってもできないかなとか、そういったいろんなギャップを感じて、いや、ちょっと私はというふうに言われてしまうことがやっぱり多いのかなと思います。

市長：ありがとうございます。若干、入団促進の後半部分にも入っている内容もあるので、まずは、どうやってそのイメージのギャップを埋めるかのところでもう少し集中的にご意見いただいてもいいですか。
はい、吉野さん。

吉野さん：僕がさっきのご説明を聞いて一番驚いたのが、お金が出るということを全く知らなくて、無償で行うものだと思っていたんで、その辺りを集中的にうまく、ピックアップしていけば少しはイメージも変わるんじゃないかなと感じました。

市長：ありがとうございます。確かにあまりにもボランティアのイメージが強過ぎると。年額であの額ですので、極めてボランティアという感じではあるんですけれども、それでも年額報酬という形では出ていると。あるいは出動するごとに出るということは、もう少し知らしめたほうがいいんじゃないのという話ですね。ありがとうございます。確かに。
どうでしょう。はい、お願いします、有里さん。

有里さん：ご説明を聞いている中で、18歳から入れるということを聞いて、私、今年18歳で、結構部活が大好きなんですけど、時間的負担が少なくなっているということで、訓練とかトレーニングをしている中で、やっぱり筋肉もつくし、何か地域のためにもなる。かつ18歳から入れるということが本当にびっくりしていて。本当にすぐにでも始められるんだなということが分かって、それを高校で何か広められたら、もうちょっと若い世代にも広がるし、イメージがやっぱり苦しいとか時間的に厳しいというのが多いんで、18歳から入れて時間的負担が少ないことをうまく広められたら、私たちと同じ年代の人が多く入れるんじゃないかなと思いました。
すみません。ちょっと後半の部分に触れながらになってしまったんですけど。

市長：いやいや、いいですね。確かに最初の私たちのイメージはみんなそうですものね。大変そうというのと、18歳からこんな若い人たちも入っている人がいるんだということに結構びっくりしますよね。もう少し年配のイメージがありましたよね。堀本さんも20代ですか。

堀本さん：19歳です。

市長：19歳、ワオー、（入団したのは）何歳のときですか。

堀本さん：18歳です。今は19歳で18歳の高校3年生のときに入団しました。

市長：ほおー。さっきからの発言がものすごくしっかりされているので、社会人なんだろうというふうに思っていましたけど、学生さんですか。

堀本さん：実際に入団して、やっぱり社会人の方々とコミュニケーションを取ったりとか、そういう経験もできるので、そういった意味でも自分の成長につながるのかなというふうには思います。

市長：びっくりですね、本当に。確かに時間がなかなかないという、時間が取られそうだというイメージから、先ほどの説明で言えば、月に1回会合があるとか・・・。

鈴木さん：月に1回の訓練と月に1回の器具点検。

市長：基本的には月に2回ありますよということですね。

鈴木さん：そうですね。自分たちのために行う分団の活動としては月2回、あとは時節によってもなんですけども、地域の防災訓練に出たりとか、地域の祭礼に交通警備で参加をさせていただいたりとか、その時々によって月に何回という形で、割かし出る機会が多いときもあるんですけども、消防団分団としての活動としては今言った月2回ですかね、これが主なところかなと。

市長：なるほど。でも先ほど言ったように、やれることをできるだけということで、無理なくという形で活動が可能ということですよ。そこはかなりイメージと違うというか、実態が違うということは、何かみんな、おおーという感覚があると思いますね。では、森さん、お願いします。

森さん：話がかぶる部分があるんですけど、ギャップを埋めるというところになると、体験するというのが僕はすごく重要なことだと思っていて、こうやって皆さんのお話を聞いている中でも、こんなにもイメージが変わるし、皆さんがもともとやられている体験会というのをもっともってやっていいんじゃないかなと思っていて、僕ら学生であれば、授業の一環として消防団の方々に来ていただいたりとか、お話を聞いたりだとか、そういったところで、意識が変わるというのが非常に大きな面があると思うので、もっともってやっていいんじゃないかなと思います。

市長：ありがとうございます。体験してみる、それ大事ですよ。イメージは頭で考えているだけじゃなかなか分からないというのがありますよね。高校生2人からすばらしい意見が出てきましたね。

ちょっと堀本さんに聞きたいんですけど、最初からやっぱり意識高く入ってこられたと思うんですけども、それこそ熊本地震を経験されて。でも消防団の最初に持っていたイメージと実態にギャップは相当ありましたか。

堀本さん：はい。ギャップは実際、私にもありました。私、入団する前にホームページだったりとかで活動をいろいろ調べてから入団はしたんですけど、親の世代の印象だと、飲み会がいっぱいあったり、40代、50代、60代とか、自分よりもすごく年が離れている人が多いというイメージがあったりとか、あと縦社会、すごく体育会系の組織で、規律とかすごく厳しいというイメージがあったんですけども、実際そんなことはなくて、先輩の方々もすごく親切にご指導くださったり、若いからこれできないと

か若いから駄目だということではなくて、入団したときからいろいろな活動に参加させていただく機会があったので、そういった意味ではいい意味でギャップがあったなと思います。

市長：ありがとうございます。

出口さんはケアマネの市の代表をされている方なので、出口さん、消防団やっているんですかと、僕ここに来てびっくりしたという感じなんですね。相当お忙しい職業を持ちながらやっているという、でも自分でもできるというイメージというふうなのは……。出口さんなんか忙しくて無理だろうと思っちゃうんですけど、いかがですか。

出口さん：ありがとうございます。そうですね、本当に時間はもう平日とか、かなり詰まっている状況ですし、自分のできる範囲の中で、いろんなイベントがあるので、防災訓練だったりとか、こういうところで活動ができるなというところを無理ない範囲でやらせていただいているという、その部分で両立というのはすごくできるかなと私個人は思っています。

市長：ありがとうございます。実際、消防団がどうして都市部の中でなかなか入団に結びつかないかという、昔は地元で仕事をされている方というか、職住接近している方が多かったんですけども、今は自分の住んでいるところから離れてお仕事をされている方が多いからなかなか難しいのではないかなと。これもまたイメージだと思うんですけども、鈴木さんは実際に都内でお仕事をされていると伺ったんですけども、正しいですか。

鈴木さん：都内ではなく、都内に行くこともあるんですけども、そうですね、東京都内、川崎、横浜、そこから辺で仕事をしていることが多いですかね。

市長：なるほど。地元で働いていなくてもというのは可能だというふうに思われますか。

鈴木さん：そうですね。先ほどから話に出ているように、「できる人ができることをできるだけ」というところで、訓練とか、いろんな行事ごとで月に何回も出なきゃいけないという月もあるんですけども、当然、仕事の都合で出られないときは出られませんで、全然オーケーなんですね。

昔は、古い体質と言ってしまおうとあれなんですけれども、やはりすごく厳しい縦社会的なところがあって、出られませんと言にくいような雰囲気も私が入ったときはまだ若干残ってはいたんですけども、今はそんなことはなくて、出られるときには出られます、出られないときには出られませんがいいので。だからこそ我々と同じ思いを持った仲間が増えることで、お互いの出られないときをカバーし合えるんじゃないかなということで、そういった部分でもたくさんの方に消防団を理解していただけて入っていただけたらうれしいなと思うところです。

市長：この空気感って大事ですよ。みんな、高校生まで、何となく大変だというイメージを持っているのは、鈴木さんがおっしゃった、出られませんとは言えない雰囲気とか、つい昭和な感じの雰囲気というのが何となく空気感として社会全体に漂っているんだけど、今、幸消防団や川崎市内の消防団の皆さんは、鈴木さんがおっしゃっていただいたような、出られるときだけ出てくださいというふうなハードルがずっと下がっているというこの空気感、メッセージというのを発信していくということがとても大事ですよ。映像だけでも私も大分印象が変わりました。

浅利さん、いかがですか。

浅利さん：そうですね。我々の町会でも、この前、秋祭りをやったときはお世話になりましたし、直接お会いするということも大切なのかなと思います。直接お会いしてお話を伺うとか、接点はもっと増えてもいいんじゃないかなと思っていますし・・・。

市長：赤坂区長にも聞きたいんです。区長は消防団の皆さんと接する機会があるからあれなんですけども、区長になる前となった後のイメージも、知ってからの実態と、なる前のイメージって大分変わっていませんか。

区長：そうですね。やはり区長になる前は、市役所に勤めていても違う部署にいるとなかなか接点がなかったものですから、今、消防団に関わっていなかった方々のイメージ、本当に皆さんおっしゃるように、体育会のような飲み会が多くて、訓練は毎回出なくちゃいけない、出られませんなんて言えないような社会かなとずっと思っていました。

今回、区長になって3年たつんですけども、幸区民はやはり安心・安全なまちづくりというのを一番望んでいるんですね。その中で、幸区の課題は何だろうと見たときに、1つが消防団の充足率が低いということに目がつきまして、今回このテーマを選ばせていただいたんですけども、テーマを選んで、事前の打合せで、実際に村石さん、鈴木さんをはじめ消防団の方にお話を聞けば聞くほど今までとのギャップがすごくあったなというふうに感じますし、また、私は横浜に住んでいて、地元の消防団とはこれまでも接点がなかったんですけども、間もなく定年退職になりますので、退職後は消防団に入ってみようかなというような、気持ち動くぐらい。今日も皆さんそうだと思うんですけど、この4方のお話を聞いていると、かっこいいなとか、自分と境遇が似ているのに消防団ができていう方が多かったと思うんですよ。学生さんは堀本さんのようにですし、私はどちらかというとサラリーマンですから、鈴木さんがやられているというところに非常に感銘を受けていますので、そういったところで、何とか、この車座集会をきっかけとして、区民の方々にこのギャップを埋められるような活動をやっていききたいなと今思っております。

市長：ありがとうございます。実は熊本地震が起きた後に、市民の皆さんから、あるいは市からも義援金を熊本の周辺自治体にお届けに行ったことがあるんですね。震源地の西原村というところに行ったんですけども、そこは人口7,000人のところで消防団員が250人もいますよ。川崎市内の人口比に転換すると四、五万人の消防団員が川崎市内にいるような計算になるんですね。そんなことあり得るのかというぐらいですね。

でも西原村は、自治体としては非常に小規模で、単独の消防署を持っていないので、そういう意味では自分たちで守らなくちゃいけないという意味から、それだけ多くの消防団員がいるわけですよ。実際に建物が倒壊して助け出したのは全員消防団員、あるいは地域の人たちの自助・互助で助け出しているというようなことなんですよ。

ただ一方で、浅利さんが冒頭言われたように、皆さんどうしてそんなことやれるんですかと。川崎市の市行政として消防職員を増やせばいいんじゃないですかという、ある意味都市部にいると消防署がやればいいんじゃないのという、そういう感覚になっているというのは、実は地域としては非常に弱いんですよ。各種大規模災害のときに、実際に救命につながっているのは、地域の組織の方だとか、自助・互助の部分というのが圧倒的に強くて、公的な機関が初動で立ち上がるというのはなかなか難しいということで言えば、消防団もそうですし、消防団も含めた地域の防災リーダーの人たちが、どれだけ防災知識と、具体的に実際行動できる人を増やしていくかということが人の命を守ることだと思うんで

すよね。

そういう意味では、消防団というのが最も組織化された地域の頼りになる組織ということになるので、そこを充足させていくということは、お互いの命を守るためにとっても大事なことだということを市としても伝えていかなくちゃいけないですし、こういった形を通じて身近な人に、消防団ってそういうところなんだと、決してできないことじゃないんだという、まずイメージを合わせていく。そしてじゃあどうやってという、次のテーマになっていくんですけども、アプローチしていくかということのをこれからちょっとお話ししたいと思いますけど、そっちのほうに移ってもよろしいでしょうか。イメージのギャップのところの話はよろしいですか。では、どうぞお願いします。

瀧塚さん：お話ありがとうございます。私、テレワークで仕事をしていることが多いので、テレワークするときに、どうしても会社の人と直接会わないので、例えば独り暮らしで出てきたばかりの人たちですと、お話しすることがない、人と会うことがないので、結構メンタルになりがちというところがあったりするんです。なかなか出てきたばかりだと地域に入り込んでいく、地域の方と接するという機会がないので、そういうときに、この消防団で地域の人とこうして綿密にコミュニケーションが取れるんですよというところをもっとPRしていったりですとか、そういったところができると、会社員にとってもいいですし、地域の方々にとっても地域を知ることのきっかけにつながっていくと思うので、ぜひそういったところでもアピールしていただけたらいいかなと思いました。

市長：ありがとうございます。素晴らしいご意見をいただきました。

どうぞ、馬場さんお願いします。

馬場さん：私も女性が消防団員をやられているというイメージがなかったので、そこもギャップがあったなと思って、そちらのポスターにもあるみたいに、女性も活躍していますよというのがもっと最初から知っていたらよかったなというのは思いました。あと、私は大学進学で地方から出てきたので、もともとこっちに住んでいなかったけど消防団に入ってもいいのかなとか、地元の団なのに外から来た人は入りにくいなとかも思ったので。だから誰でも入っていいよという空気感とかも伝わっていたらよかったなと思いました。

市長：ああ、なほどね。素晴らしい意見ですね、確かに。

馬場さんは看護大に入学するに当たって、市外からこちらに引っ越してきたんだけど、何となく、私、通っているんだけど、地元という感じではないからちょっと入ってもいいのかなという、そこに心理的なハードルがあるんじゃないのかと思われたわけですね。

馬場さん：はい。県外から出てきて、全くこの地域のことも知らない状態で、学校は川崎市の幸区にあるけど、何というんですかね、そっちの人たちに加わってもいいのかなみたいな、ちょっと考えちゃうなと思いました。

市長：ありがとうございます。

堀本さん、いかがですか、熊本から。

堀本さん：その気持ちになるのはすごく分かります。僕も、例えば自治会とかに参加するなど、小さいときから地域の行事に参加してとかそういうことがなく、どういう人たちが入っていて、どういうつながり

で動いているのかというのを全く知らない状態で入ったので、確かにそういった不安だとかを払拭できるような広報だったりができたら、もっとそういった方々にも入団してみようかなというきっかけになるのかなと思いました。貴重なご意見ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。なかなか気づかない視点でしたね。ありがとうございます。

だから、冒頭私を含めて、恐らく消防団以外の皆さんが思っていたイメージというのと、実態とある意味真逆、女性も入れる、18歳から入れる、できるときにやれることをやってくれればいいということですし、時間的な制約というのも思っていた以上になかなかフレキシブルに捉えていただけるという形でいうと、ハードルがぐっと下がってきたと思います。

<市長との意見交換② 入団促進に向けた方策について>

市長：では、このイメージのギャップを埋めながら、どういう手法で具体的に入団促進につなげていく方策があるのかなということについて皆さんに少しアイデアをいただければと思います。

今もちょっと出てきたというふうに思いますけども、同じような形でも結構です。どなたからでも結構です。アイデアをいただければと思います。

馬場さん。

馬場さん：私は看護大学に通っているんですけど、地域のために何かしたいという気持ちとかが私もあって、将来は地域と深く関われる仕事をしたいと思っていたので、私が通っている川崎市立看護大学が結構地域の人との関わりが深い大学で、多分地域ともっと関わりたいと思っている学生が多いと思うので、そういう看護大学とか、そういうものを目指している人たちに向けて、例えば看護大学で説明会とかを開催して下さったりすると良いと思います。私もすごく消防団にも興味が出たし、地域のことをもっと知ろうと思えたので、説明会を開催する場所とかも、看護大学であったり高校生であったりとか、いろんなところでやっていただくともっと興味が出てくる人が増えるんじゃないかなと思いました。

市長：素晴らしいアイデア、ありがとうございます。本当ですよ。まさに年齢的にもターゲット層ばっちりですよ。そういう意味ではぜひ看護大で、どういう機会がいいのかな。お祭りもありますし、授業の一環でもいいですね、コマをもらって紹介をしていただくというのをぜひ学長にもお話しさせていただきたいと思いますし、馬場さんからこういうのに行ってきたよと、ぜひそういうのをやったらというふうに学校でも声を上げていただければありがたいですね。素晴らしいご意見ありがとうございます。

さっき森さんも同じようなことをおっしゃっていましたね。どうでしょう。もう1回、学校の皆さん、高校生、3年生からは入れる人たちもいるんだろうけども、ただ、高校3年生はなかなか活動しづらいですよ。だからまず紹介を、こういう活動があるんだと、消防団はこういう活動をしているんですよというのを知る機会というのは必要ですよ。先ほど森さんは体験会のような話をしていましたね。どんな体験だったらいいと思いますか。

森さん：そうですね。様々な形があると思うんで一概には言えないんですけど、やっぱり今のイメージが変えられたように、災害時だったりとか、そういったので地震の何か体験、実際に震度何だったりとかという揺れが体験できるような機会はたまにイベントだったりとかで出展されていたりするんですけども、そういったカテゴリーでもっと、抽象的になってしまいますけど、そういったアイデアが生まれてきたらなというのと。

あと、知るというところでは、今ポスターが設置されていますけど、それをもっとより良くできるんじゃないかなと僕は思っていて、例えば、青色の「学生消防団員活躍中」というのがあるんですけど、あの言葉はすごいキャッチーだなと思って。自分に近い世代の人たちが第一線で活躍しているというのが一発で分かるなというのと、あと、先ほどからお話で出てきている「できるときに」という言葉、キーワードを活用して、できるだけいいんですとか、そういうところをキャッチフレーズにしたポスターを駅前とか人々の目につくところに配置してもいいんじゃないかなと。それでもっともっと知る機会になるんじゃないかなと思います。

市長：すばらしいですね。本当だね。学生消防団員活躍中って、おじさんでも刺さりますよね。かつ学生さんたちからしてみれば、おっしゃるように、自分たちの同年代が活躍しているんだというのは、何かへえっと単純に思いますよね。
有里さん、いかがですか。

有里さん：やっぱり学生でもできるというところが大きいなと思っていて、それを知らないでいるともったいないなと思うところがあるので、森さんとかぶってしまうところがあるんですが、もっと紹介をしていく、それでいうとポスターを人の目のつくところに置くとすると、そういう学生消防団員募集中というのを学校で貼れたら学生メインで見られるし、それを広げていくことができれば、何というんですかね、ちょっとすみません、話がまとまらなくなってきちゃったんですけど。

市長：いえいえ。

有里さん：やっぱりそうですね、ルーチンを知る。学生で消防団員をやっている人のルーチンを知ることができると、もうちょっと具体的なことが想像できるんじゃないかなと思って。
高3だと受験があって忙しいとか、部活があって、最後まで本気でやりたいとか。だけど地域でも活躍してみたいという人が多分少なからずいると思うんですよ。となったときに、消防団となると、やっぱり忙しいんじゃないかな、苦しいんじゃないかなとか、そういうところが第一印象にあったんですけど、この会話を聞いていく中でそのハードルがどんどん下がってきて、こういうことを紹介、それこそ私、幸高校から来たんですけど、一コマ使って何かそういう講演会を開いていただきたたりとか、あとは年の近い人に来てもらって、実際に高校時代はこういうことをしながらこういう消防団の活動をしていたんだよということを聞くだけで、自分でも入りたいなと思えるんじゃないかというところがありました。

市長：ありがとうございます。すばらしいご意見ですね。講演会を開く、あるいはターゲットをしっかりと当ててというか、学校に学生団員活躍中という、自分たちに近いところのポスターを貼るということもありましたし、それから実際にどんな活躍をしているのか、ルーチンを知るという表現をされていましたけど、若い人たちがどういうことをやっているのということを示してくれたらもっと理解が深まるんじゃないかというご意見ですね。すばらしい。ありがとうございました。

いかがでしょうか、皆様。ちょっと驚きの高校生の発言に。
お願いします。瀧塚さん。

瀧塚さん：今、有里さんがおっしゃっていただいたルーチンを周知するというところ、私も働き方が大きく変わったときに、1日のある社員の働き方という動画を作って配信をしたんですね。なので、そういつ

た形で、消防団だと年間の活動の仕方みたいな形になっちゃうかもしれないんですけど、学生さんのパターンであったり、会社員のパターンであったり、そういった形で働き方を簡単な3分とか短い動画でぱっと周知するみたいなのは、SNSとかも使いながらできると、そういう若者のところを、ポスターじゃなくてSNSが今やっぱり主流なのかなというふうに思うので、うまく広報していけるといいのかなと思いました。

市長：それもいいですね。瀧塚さんの（動画は）在宅勤務の1日という動画なんですか。

瀧塚さん：そうですね。在宅勤務もしているんですが、オフィスでも働くことがあるので、午前中は在宅をしながら午後は会社に出社をしたり、あと、また別のカフェみたいなところで働いたりみたいな働き方であったりとか、あと、途中中抜けという制度があるんですが、途中病院に行ったりとか、自分の生活も含めてうまく働いていきたいと思います動画を作ったりしたんですけど、そういったものを……

市長：それは会社として作られたんですか。

瀧塚さん：そうですね。

市長：なるほど。

瀧塚さん：そういったこともいかに分かりやすく周知するかというところは非常に大切かなと思うので、先ほどの、特にギャップのところですよ、埋められるような動画だともっと響くのかなと思いました。

市長：確かに在宅勤務で、これ途中で買物に行っちゃっていいのとか、カフェで仕事しちゃってオーケーなのとかって、いろいろもやもやがありますよね。もやもやも、これはいいんです、これは駄目なんですというものをちゃんと動画にして、短く分かりやすく作ってみたい。それが会社内で共有されて、周知されていくということですね。なるほど、すごくいいお話ですね。参考になります。市役所でも参考になりそうなお話。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。ここまで聞いていていかがですか。出口さん、鈴木さん。

出口さん：いろいろなお提案ありがとうございます。すごくいっぱい膨らんできました。その中で本当にギャップ、やっぱり皆さんが思っているギャップをどう外していくかと。広報の仕方、見せ方、広報でもああいうチラシを活用したりとか、皆さんに伺った広報の仕方であったりとか、広報先であったりとか、本当にそういったところではすごく膨らんできました。ありがとうございます。

鈴木さん：本当に皆さんから貴重なご意見を頂戴しまして、また特に学生の方から、こういう素晴らしいお話が聞けたことがすごくうれしくて、若い人という言い方はちょっと語弊がありますがけれども、そういった年代の方たちも、やはり地域を思う気持ちがあるんだというお話を聞けて、本当に何か心が温まったというか、うれしい思いがしました。その中でいろんなお話を頂戴しましてありがとうございます。

我々も、先ほど出てきたプロジェクト会議の中で、どういうふうにしていったほうがいいのかなというのをたくさんたくさん時間をかけて話し合ってはきたんですけども、やはり自分たちが消防団員であるがゆえに、消防団としての目線で考えてしまっているところがすごく多かったんだなと思いました。

て。今、出口さんのお話にあったような、こういうふうに発信していったらいいのかな、幸消防団としてはこういうふうな方向でやっていったほうがいいのかなという、何となくイメージ、そういったものがすごく膨らんできたところですので、皆さんからいただいたご意見をフルに活用しながら、自分たちができることをまた検討しながら進めていきたいと思いますので、本当にご意見ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。

吉野さん、いかがですか。吉野さんも川崎市外からですか。

吉野さん：市外からで、まだここには住んでいないんです。将来的に川崎市に移住する予定なので、将来のためにいろいろここで学びたいなと思ってこの車座に参加させていただいたというところです。

市長：ありがとうございます。どうでしょう、何かこうやったら、もやっとしているのがなくなって、入りたい人が増えるんじゃないかというようなアイデアがありますか。

吉野さん：そうですね。ポスターとかを見て、先ほどおっしゃった、若い人が多いとか女性も参加できるというのを具体的な数字として出すというのが大事なのかなと思っています。例えば何%とか何人以上とか、そういうのを、そうした具体的なほうがイメージしやすくなって、もっとハードルが下がるんじゃないかなというふうに感じました。

市長：なるほど。確かに、女性いますというのだと1名かもしれないけど、もうちょっといるんだということになるのでは大分違いますよね。なるほど、大事ですね。ありがとうございます。

北野さん、いかがですか。

北野さん：ありがとうございます。そうですね。僕もポスターとかの案はすごくいいなと思ったんですけど、ただ、これが町なかに掲載されていたとして、僕の性格もあるかもしれないんですけど、結局誰かがやるんだろうみたいな、人ごとのように思ってしまうこともあるかなと僕は思いまして。なので、今こうやって車座集会にお呼び立ていただいて、すごく興味は湧いてきている次第なので、やっぱり直接お話を聞いて、例えば人それぞれやりがいだとか達成感だとかがあった上で入団いただいていると思うので、そういうのを直接お聞きする場があればもっと興味が湧いてくる方々も一般の方で増えてくるのかなとは思いました。

市長：ありがとうございます。確かにSNSというのものもあるんですけど、実は紹介する動画だとかはいいんですけど、結果的にアナログで、対面でお声がけしてというものとうまく使い合わせないとなかなか効果的にはならないというのは、これまでもいろんなところで出てきたと思うので、北野さんがおっしゃるように、対面だとか、そういう機会、場を増やすということが大事だということですね。

北野さん：そう思いました。

市長：ありがとうございます。青山さん、いかがですか。

青山さん：ありがとうございます。実際に自分だったらどうだろうと考えたときに、私が、今、幸区内で2

歳の娘と小学生の娘を育てていまして、さすがに子育て中のママは無理かと何となく思っちゃうんですけど、実際、団員の中には多分子育てされている方もいらっしゃると思いますし、団員中で妊娠、出産とかされる女性の方とかもいますかね。さすがにいないでしょうか。

出口さん：ご質問ありがとうございます。結婚されてお子さんがいらっしゃる、小さいお子さんがいらっしゃる、やってもやっぺらいらっしゃる方はいて、中には妊娠をきっかけにやっぱり子育てのこともあるということで1回退団される方もいますが、ただ、子育てが少し落ち着いたとか、やれるなというときにはまた再開してくださることを私どもも望んでいますし、両立できるような体制で消防団もあるべきだと思いますので、ぜひ小さいお子様がいらしてもやれるような消防団でありたいなと思っております。

青山さん：ママでも大丈夫ということも、もうちょっと発信してもいいんじゃないかなと思います。実際、まだ子どもが小さいからなと思って尻込みしている方も多いと思うので、お子さんがいても大丈夫だよ、子どもがいてもできることがあるよというアピールをもうちょっとできるといいかなと思いました。

市長：ありがとうございます。ほか、いかがでしょう。
お願いします。森さん。

森さん：ちょっと聞いていて思ったのが、大災害とかがあったときに被害者の会とかがあると思うんですけれども、例えば、看護大学からいらっしゃる方もいますし、そこから消防団員になれる方も多いとか、地域のためになることをしたいとか、そういうふうにいる人たちは結構多いと思うんですけれども、その人たちに前を向かせるという意味でも、自分たちでも何かできることはあるんだよということを知らせるためにも、隊員の方たちに来ていただいてお話をさせていただいて、今から訪れるであろう大災害に向けて、自分たちに教訓としてもっと何かできることがあるぞと。そのための第一歩として、隊員、消防団というものをお勧めするじゃないですけど、推進していくというのも、形としてはすごくいいんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。村石さん、お願いします。

村石さん：いろいろ事前に自分で今回こういうことがいいんじゃないかなということで、入団促進のプロジェクトチームのほうの一応中心的なものもやっていたので語りたいと思います。

実は、入団促進に当たって充足率の向上ということで、見て、来て、体験して、今の消防団という体験型のイベントを考えております。これを実現しようとするには、具体的にじゃあどこで誰とというのが大事で、なかなかその接点がなかったのが、今日、車座といういい機会があったので、クレストプライムレジデンスの自主防災組織ですか、そことぜひ具体にお話を進めてやりたいなと。それと、先ほど幸高校の生徒さんから、消防団について知見を深めたいということなので、ぜひそういう場を、窓口として有里君、森君、ぜひ一緒にやっていきたいと思います。具体的にこういう場を利用して出会いということで一期一会じゃないんですけど、やりたいと思います。

あと、看護大、実は、私、4分団におりまして、地域の中の財産だと思っております。看護大については、小倉町内会と川崎市立看護大学及び周辺地区の活性化に関する協定の第2条6項で、地域の安全・安心に関することで連携しましょうよということになっているので、実は前々からいろいろ看護大の「青朋祭」とかも消防団で参加させていただいたりしていたんですが、今回、いい機会を得たので、この車座に参加している市長さんと共有して、ぜひ看護大にいろんな説明とかに伺わせてもらえたらあ

りがたいと思っております。

あと、もう1点なんですけど、消防団は、今まで手作業でいろいろやっていたんですよ、連絡でも何でも。それはなかなか難しいなと思っていて、それを補う意味で、消防団DX、アプリ系のもの、今スマホをほとんど消防団員は持っているので、災害の状況とか、いろいろ出場に対してもいろんなサポートができるので、ぜひそういう消防団のデジタル化について考えていただけることもこの場で共有できたらありがたいなと思います。

以上、3点、私のほうで考えておりますので、ひとつよろしくをお願いします。

市長：ありがとうございます。

まとめる前に一言言っておこうという話がありますか。堀本さん、よろしければ。大丈夫ですか。いかがでしょう。せっかくですからね、言い残さないようにしていただければと思うんですけども、鈴木さん、今、村石さんも中心的に促進方策について考えていただいて、プレゼンもしていただいて、皆様のご意見をいただいて、どういうふうな捉え方というか、次につなげていこうかという思いがありましたら教えていただけますか。

鈴木さん：そうですね。1番は、やはり今日皆さんが最初に話を聞かれる前に思っていた消防団のイメージですかね。そこと実際に話を聞いてみたらギャップがあったというところの、どのぐらいどういうギャップなのかなというところが、分かっていたようで、具体的に皆さんのお話をお伺いするまで、やっぱり分かっていなかったかなというところが正直な自分の感想でもあります。

これは先ほど申し上げた、やはり自分たちが消防団員であるがゆえに、消防団員としての目線で物を見てしまったり考えてしまったりというところが大きかったのかなというところと、率直に先ほどお話を聞かせていただいたPRの仕方とか、何となく自分たちでは、そんなの今でも何か似たようなことをやっていたけど効果なかったよ、だから何かもうちょっと違うことをしなきゃなという頭でいたんですけども、本当に原点に立ち返り、いや、そうじゃなくて、発信をする中身だったりやり方だったりというのを、もうちょっと皆さんが思っていらっしゃるような目線を踏まえて発信したら違うのかなという、すごく大きな気づきがありました。ポスター1つもそうですし、体験会、そういったイベントをどういうふうな中身でやっていくかというところですごくヒントになったかなと思いますので、皆さんからお話しいただいたことをいい材料にさせていただいて、幸消防団のほうで、今年度残り僅かですけども、あと来年度と、具体的な入団促進のより良い活動ができるように、具体的な検討をまた進めていきたいと思います。本当にありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

大体時間になりましたので、少しこちらのほうでまとめさせていただきたいと思いますが、皆さん、本日はご参加いただいて、本当にありがとうございました。

今、鈴木さん、村石さんからもおっしゃっていただいたように、消防団からの視点という形での広報というのも一生懸命考えていただいていたんですけども、今日いろんな角度からご意見をいただいたことによって、ちょっと目からうろこみたいな発見というのが幾つもあったと思います。

ぜひこれを村石さんがおっしゃったように、具体的に落としていくということがとても大事なので、自治会、町内会の皆さんとしっかりと、じゃあこのモデル地域でやってみましょうということも必要でしょうし、幸高校もあれば看護大学もあるということなので、誰にどこで何をというふうな、しっかりそれぞれに基づいた具体的な方策を次のステップに進むと。消防団の皆さんにおかれては入団促進バージョン2みたいな形で、さらに一步進めていくという、そういういいきっかけになったのではないかな

と思っています。

究極の目標は、災害は避けることはできないので、災害の影響をどれだけ軽減させるかということ、地域でなければならないということをみんなが自分事として行動に移すことだと思います。消防団というのは大きなポジションを占めていますので、ぜひ自分事として考え、そして行動していきたいなと思っています。

村石さんから言われた、消防DXですね。消防団のどういうものか、ぜひ拝見させていただいて、なるべく負担軽減をしていくということはとても大事なことだと私も思っていますので、ぜひ検討させていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

年始早々の開催でしたが、先日、臨港消防署の出初式にお邪魔して、そこでも消防団の活躍というのはすばらしかったです。消防職員も一生懸命頑張ってくれていますけども、地域の皆さん、消防団の皆さんがあつてこそ、やっぱりこの連携がうまくいくと強くなるんだなということを実感していますので、ぜひこれをきっかけにまた結び合うというか、つながり合っている形にしていきたいと思っています。今日をご参加いただいて、本当にありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは、以上をもちまして第71回車座集会を終了いたします。

本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。